



ほっとほっとタイムズ—第7号—

2026.2.17

井荻小学校 特別支援教育校内委員会
教育アドバイザー住谷陽子

今までにないような寒い日々が続いたこの何日間でしたが、皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。

東京では雨の降らない日が記録的に続いている中、雪国では命を脅かすような豪雪に見舞われ、夏だけではなく、冬までも生きていくことが大変な世の中になってしまったと感じている今日この頃です。

さて、今回は今までとは違った観点からお話をしてみたいと思います。

1 月末、「土木デザイン賞」の表彰式があり、「遅野井親水施設」が「奨励賞」として表彰され、なんと、関係団体として井荻小学校にも賞状が届きました。初めてその話を聞いた時、なぜ、土木デザイン賞に井荻小学校?と思いました。この賞のコンセプトを聞いて納得しました。

「デザインとは、形を描くところから始まるのではなく、地域を知る、課題の発見、解決方法、事業としての具体案、そういう一連のプロセスを指す」という言葉を聞いてなるほどと思いました。そして、本取り組みを紹介してくださる方も、この活動が「川をきれいにするために自分たちでできることをやろう」と動き出した子どもたちから始まり、それを助けるたくさんの方々がいて、子どもたちの描いた夢水路設計図を区長に届けたことから実現に向けての動きが始まったこと、できた後も、地域の方々が維持管理や川を使った環境教育を推進してくださっていることなどを丁寧に説明してくださいました。

審査をされた方々の言葉も、考えさせられるものがたくさんありました。こうした川や公園などを使う人たちが本当に満足できるものになっているか(人だけではなく、今は生き物も大事に考えられています)、長年耐えるものになっているか(100 年先を見通して作ったという声もありました)、理想はそこにあるべきものがあるべき姿として成り立っているか(どの例も昔の姿を丹念に調べたり地域の方の声を集めたりという努力がされていた)などなど。

普段、教育の現場だけにいると決して知ることのできない経験だったと思いますが、多くの人々(命)のことをずっとずっと先まで考えて丹念に努力している人々がいて、それをきちんと評価する世界があるということに感動しました。また、映画のエンドロールを例に挙げながら、「一つの作品ができるまでには、実は表に名前が出てこない、たくさんの方々の思いや努力がある。この遅野井川の取り組みにもたくさんの方々の思いや努力があることを伝えたい」というスピーチもありました。

さて、私たちの日常はどうでしょうか。

1 月に入り、17 日には 5 年生が「小中学生環境サミット」で、24 日には 6 年生が「水鳥の棲む水辺創出事業シンポジウム」で、堂々と自分たちの思いを述べてくれました。発表する子どもたちの顔は自信に満ちていました。一人一人の子どもたちにとって、とてもいい経験になったことと思います。そしてそれは日々の小さな経験や学びの上に成り立ったものだと思います。多くの支援の方々や先生たちのおかげです。

日ごろ何気なく過ごしている中でするたくさんの方々の経験、それが間違いなく、子どもたちを育てているのです。子どもたちを取り巻く大人たちが同じ思いで協力してかかわることができれば、それはいつか大きな力となって現れることは間違いありません。間もなく3月、子どもたちは大きな変化の時期を迎えます。

学校も家庭も、「人間を育てる」という、大きな事業を行う場だと思います。そこにかかわる私たち、ついつい目先のことにとらわれがちですが、あの土木の方々のように子どもたちの将来、50 年後、100 年後の世の中を見据えて活動していきたいものだと改めて思いました。

※3月6日高学年保護者会の後、今年度最後の「ほっとほっとティータイム」を企画しています。

たくさんのご参加、お待ちしております。